

キラリよしおか古語り⑨



④自害沢3号（吉岡町）



⑤自害沢4号（吉岡町）



- ①滝ノ沢 11号
- ②自害沢 1号
- ③自害沢 2号
- ④自害沢 3号
- ⑤自害沢 4号
- ⑥自害沢 5号
- ⑦自害沢 7号
- ⑧自害沢 8号
- ⑨自害沢 9号

榛名山麓は、群馬県でも雨の多い地域であり地質が火山灰地であるため「悪沢」・「自害沢」といった沢名が残されているように、古くから集中豪雨のたびに山崩れをおこし、土砂が流される地域でした。

時は明治維新後、富国強兵と殖産興業のもと、河川・港湾事業に多くのオランダ人技師が招かれ、明治14年から18年、内務省（現在の国土交通省など）の直轄工事として、榛名山麓に堰堤が120基築造され、現在28基が確認されています。これらの堰堤は、オランダ人技師のひとり、ヨハニス・デ・レイケの指導によるものといわれています。

デ・レイケ堰堤

コンクリートも使わずに、直径1mにもおよぶ大きな石を積み上げた堰堤は130年あまりの歳月に耐え、今なお榛名山麓の治山・治水に貢献しています。まさに群馬の土木遺産とも言えます。このデ・レイケ堰堤は、自害沢に8基、滝ノ沢に1基あり、吉岡町に合計9基あります。

先日九州北部が記録的な豪雨で、大きな被害を受けました。このような集中豪雨がいつ身近に起こるかわかりません。デ・レイケさんに感謝しながら、防災意識を高めたいものです。

情報・写真提供

国土交通省利根川水系砂防事務所

編集後記

鉢植えの朝顔が、赤・青と色鮮やかに咲き競い、風鈴の音色が、猛暑を和らげてくれる、そんな季節になりました。

4月から5月にかけて、富岡・安中市で開催された「花と緑のぐんまづくり」が来年は、吉岡町で開催とのことで、「人と自然輝く丘の手タウン」が、花の香に包まれることと思いい、待ち遠しいです。

また臨時会にて、委員の選任があり、広報委員は新メンバーになりました。7月4日には広報研修に参加し、本号から反映すべく編集しています。

議会のことが手に取ってわかるように、委員一同努めていきます。皆さまのご意見をお待ちしています。

（金谷 康弘）

編集委員

委員長 金谷 康弘
副委員長 村越 哲夫
委員 高山 武尚
竹内 憲明
五十嵐 善一
大林 裕子
富岡 大志